

報告第21号

令和元年度公益財団法人宇治市文化センター経営評価の報告
について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第5条
第1項の規定に基づき、令和元年度公益財団法人宇治市文化センタ
ー経営評価について、別紙のとおり報告する。

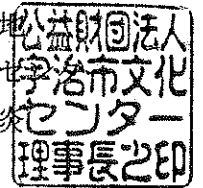
令和2年9月16日提出

宇治市長 山 本 正

2公財宇文第60号
令和2年6月24日

宇治市長 山本 正 様

所在地 宇治市折居台一丁目1番地
法人名 公益財団法人宇治市文化センター
代表者名 理事長 土屋 泰



宇治市出資法人自己評価報告書の提出について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第4条第2項に基づき、次のとおり報告します。

宇治市出資法人自己評価報告書

1. 法人の概要

団体名	公益財団法人宇治市文化センター	設立年月日	昭和59年10月28日
公益財団法人への移行年月日			平成23年4月1日
基本財産	10,000千円 (移行前 10,000千円 うち市出えん・出資金 10,000千円 出資比率 100%)		
設立目的	すぐれた文化、芸術を企画、公開し、並びに市民の文化活動の育成を図り、もって市民の文化、芸術の普及向上に努め、広く市民文化の振興に寄与する。		

2. 役職員の状況

		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
		市職員	市OB	市職員	市OB	市職員	市OB	
役員	常勤	1	0	1	0	1	0	1
	非常勤	14	3	14	3	14	3	2
職員	管理職	2	0	2	0	2	0	2
	一般職	6	0	6	0	6	0	2
	計	8	0	8	0	8	0	4

*役員と職員の兼務は重複して計上している。

3. 事業の概要

主要事業名	事業内容
公演等開催事業 (自主文化事業)	舞台芸術公演及び映画上映会等の開催
文化会館運営事業 (貸館事業)	文化芸術活動等に対する文化会館の施設・設備の提供 市内文化芸術活動団体に対する文化会館使用料の助成(自主文化事業)
文化センター 施設管理事業	文化センターの施設・設備の保守管理

4. 財務状況

1) 正味財産の状況

(単位：円)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
収 益	145,935,069	147,423,116	145,057,404
収益事業収益等	7,598,645	9,573,429	7,825,465
市支出金	138,336,424	137,849,687	137,231,939
人件費	39,223,668	39,334,136	39,642,989
事業費	99,112,756	98,515,551	97,588,950
費 用	145,935,069	147,423,116	145,057,404
人件費	39,223,668	39,334,136	39,642,989
事業費	106,711,401	108,088,980	105,414,415
当期経常増減額	0	0	0
当期正味財産増減額	0	0	0
期末正味財産合計額	10,000,000	10,000,000	10,000,000

2) 貸借対照表

(単位：円)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
資産合計	42,949,682	42,622,089	40,831,549
流動資産	14,657,934	13,636,341	11,309,779
固定資産	28,291,748	28,985,748	29,521,770
負債合計	32,949,682	32,622,089	30,831,549
流動負債	14,657,934	13,636,341	11,309,779
固定負債	18,291,748	18,985,748	19,521,770
正味財産合計	10,000,000	10,000,000	10,000,000
基本財産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
その他正味財産	0	0	0

3) 市財政支出の状況

(単位：円)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
補助金	45,822,502	46,439,723	45,373,065
委託料	92,513,922	91,409,964	91,858,874
その他(分担金等)	0	0	0
計	138,336,424	137,849,687	137,231,939
貸付金	0	0	0
借入金残高(期末)	0	0	0
市の債務保証残高(期末)	0	0	0
市の損失補償残高(期末)	0	0	0

4) 主要経営指標

指標	算式	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
人件費比率	人件費計÷費用計	26.9%	26.7%	27.3%
自己資本比率	正味財産計÷資産計	23.3%	23.5%	24.5%
流動比率	流動資産÷流動負債	100%	100%	100%
借入金依存度	借入金残高÷総資産	0%	0%	0%
借入金返済能力	長期借入金÷(減価償却費+税引後利益)	- %	- %	- %

5. 経営評価（法人自己評価）

視点	評価	コメント
目的適合性	A	<p>文化芸術の振興（公益目的事業）を主目的とする宇治市出資法人として、自主文化事業（公演等開催事業、文化会館使用料助成事業）を積極的に推進し、市民の文化芸術の普及向上に努めるとともに、宇治市文化会館の指定管理者として、市民の文化芸術活動をはじめ施設利用者の諸活動の円滑な実現に努め、法人の目的である「市民文化の振興」に適合した事業活動に取り組んだ。引き続き特色ある自主文化事業の創意工夫や文化会館の利用促進に向けた取組が重要である。</p> <p>(1) 公演等開催事業</p> <p>宇治市補助金及び京都府補助金の交付や京都府委託事業の認定を受けて、次の事業区分により市民をはじめ広く文化芸術の参加・鑑賞機会を提供した。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月に予定していた2事業は中止した。</p> <p>□ 鑑賞機会提供事業</p> <p>プロアーティストによる舞台芸術公演（音楽、芸能、舞台サーカス）及び宇治シネマ劇場を開催し、5,872人の市民等に文化芸術の鑑賞機会を提供した。</p> <p>宇治シネマ劇場では、避難訓練の同時開催や国際映画祭最高賞受賞作品の上映、映画監督来館イベントなどに取り組むとともに、引き続き、鑑賞カード（5回鑑賞で次回無料）を発行して集客増員に努め、有料上映会の1日平均入場者数は436人となり目標値の350人を超えた。</p> <p>□ 参加創造事業</p> <p>地域に根ざした文化芸術の振興に努めるため、市内の学校や社会教育団体、文化芸術活動団体と連携して、市民が参加創造する舞台芸術公演やワークショップ型公演を積極的かつ</p>

重点的に推進し、3, 134人の市民等に文化芸術の参加・鑑賞機会を提供するとともに、宇治市文化会館の特色ある取組を市内外に発信した。

〈自主制作型公演〉

- ❖ 交響吹奏楽団オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ
市内10中学校・5高等学校吹奏楽部から238人が共演
- ❖ 参加型ファミリーミュージカル「ヘンゼルとグレーテル」
市内小中学生57人がプロ劇団と共演
- ❖ 源氏物語朗読劇講座
市内小中学生17人が参加、宇治っ子朗読劇団☆Genjiを結成して市内外の催物で活動成果を発表

〈共催型公演〉

- ❖ 京都府警察音楽隊「宇治プレミアムコンサート2020」
市内6中学校吹奏楽部から53人が共演

□ 普及啓発事業

恒例の宇治市民文化芸術祭を共催し、1,082人の市民に文化芸術活動の発表の場を提供するとともに、6,880人の市民等に文化芸術の鑑賞機会を提供した。

(2) 文化芸術活動等の円滑な実現

ホールの貸館利用については、引き続き「利用担当者制」(同じ職員が打合せから利用終了まで一貫したサポートを行う仕組み)によりコーディネート機能の向上を図り、文化芸術活動をはじめ施設利用者の諸活動の円滑な実現に努めた。

(3) 文化会館の利用促進

これまでの取組(利用案内広報や利用手続の見直し、利用担当者制の導入、宇治市の文化会館使用料免除制度など)によりホールでは市外も含めて新規・再度の利用及び市立学校の利用が一定増加するとともに、練習室などホール以外の施設の個別利用は平成28年度から大きく増加したが、引き続きホールの新規利用が少なく、利用日も休日に集中しているため、新規利用・平日利用の促進に向けた有効な取組の検討が重要である。

〈施設利用実績〉

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月下旬以降のホール利用は全て取消になるとともに、ホール以外の施設の個別利用も大半が取消になった。

		<p>□ 年間利用日数</p> <p>大ホール・・・・・・・・・・112日（前年度123日）</p> <p>小ホール・・・・・・・・・・142日（前年度147日）</p> <p>ホール全体・・・・・・・・・・186日（前年度205日）</p> <p>関連施設全体・・・・・・・・274日（前年度288日）</p> <p>□ 年間利用人数</p> <p>126,153人（前年度137,194人）</p> <p>□ 年間利用率</p> <p>大ホール・・・・・・・・・・37%（前年度42%）</p> <p>小ホール・・・・・・・・・・47%（前年度50%）</p> <p>ホール全体・・・・・・・・・・61%（前年度70%）</p> <p>関連施設全体・・・・・・・・86%（前年度91%）</p> <p>（4）文化会館使用料助成事業</p> <p>宇治市文化事業基金を活用して、文化芸術の普及向上に寄与する市内の17団体に文化会館の使用料を助成し、市民サークル等の文化芸術活動を育成・促進した。</p>
<p>効率性</p>	<p>A</p>	<p>（1）公演等開催事業</p> <p>鑑賞機会提供事業の運営にあたっては、引き続きリスク負担の少ない共催型公演に取り組み、少額費用で多様な文化芸術の鑑賞機会を提供した。</p> <p>（2）文化会館運営事業</p> <p>引き続き夜間利用管理体制の縮小など効率的な勤務シフトの設定により、職員の休暇確保と時間外勤務の縮減に努めた。</p> <p>（3）文化センター施設管理事業</p> <p>引き続き施設・設備の安全快適性と機能保全を優先して計画的に修繕を実施した。</p> <p>（4）事務局運営</p> <p>賃貸期間終了後の事務用システムを継続して使用することにし、システム管理費用を半減した。</p>
<p>組織運営健全性</p>	<p>A</p>	<p>（1）評議員会・理事会・委員会</p> <p>関係法令及び定款に従い、評議員会、理事会を運営するとともに、外部からの有識者を含めて「自主文化事業選定委員会」及び「文化会館使用料助成審査委員会」を設置し、健全な組織運営を行った。</p> <p>（2）事務局運営</p> <p>重点取組として、職場会議や研修・訓練を通じて、利用相談</p>

		<p>機能の向上、専門的事務の適正処理及び非常時対応力の向上に努めるとともに、引き続き、業務運営マニュアルの整備、職員の自己目標管理に取り組み、安定した事務の確立、業務の計画推進や工夫改善に向けた職員の意識向上に努めた。</p> <p>利用相談機能については、利用担当者制の定着により大きく向上するとともに、専門的事務の適正処理、事務改善、情報共有などの機能も向上した。引き続き継続した取組が重要である。</p>
財務健全性	B	<p>(1) 法人運営、指定管理事業運営</p> <p>宇治市補助金及び文化会館指定管理料の範囲において、勤務シフトや委託業務内容の見直し、修繕業務における優先順位の設定などにより健全な財務運営を行った。</p> <p>(2) 公演等開催事業運営</p> <p>関係補助制度等の積極的な活用、入場料収益（主催型）及び入場券販売手数料収益（共催型）の向上に努めるとともに、他団体からの受託事務や利便設備設置手数料収益など自主財源の積極的な確保に努め、財団自主収益金は当初の公演等開催事業収支計画における計画額を超えた。</p> <p>一方で、公演等開催事業の主要な財源になっている関係補助制度については、数年度にわたり認定を受けている制度もあることから、今後の継続性に懸念があり、現状の財務状況は良好ではあるが安定した状況にはなく、新たな関係補助制度の開拓など財団自主収益金の拡大増収が課題である。</p>
総合評価	B	<p>令和元年度の事業活動は法人の設置目的に適合し、健全な組織運営・財務運営に努めたが、引き続き、特色ある公演等開催事業の創意工夫と安定した事業財源の確保、文化会館の新規利用・平日利用を促進する有効な取組の検討、事務局機能の一層の向上を推進する必要がある。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う公演等開催事業や文化会館使用料助成事業の一部中止及び2月下旬以降における貸館利用の取消により自主文化事業実績、施設利用実績は前年度を下回った。</p>

評価の目安 A：良好である B：ほぼ良好である C：やや課題がある D：課題が多い